

質問に対する回答

工事名) 八戸自動車道 櫛引馬淵川橋耐震補強工事

質問事項と回答

番号	質問事項	回答
1	<ul style="list-style-type: none"> ・特記仕様書 P35 の 24-15-2 種別に単価表の項目と区分内容が記載されており、「表面仕上工 A」は「炭素繊維シートの箇所を仕上げることをいう。」と記載されています。また、P36 の 24-15-4 施工には (1) 下地処理工、炭素繊維シート工及び表面仕上工 A の施工は「構造物施工管理要領」Ⅲ-7-1-6 の関連する規定に従って行わなければならない。と記載があります。 ・構造物施工管理Ⅲ-7-1-6 P131 表 7-1-15 仕上げ材の品質規格に仕上げ材 A、仕上げ材 B と二つの規格が規定されており、仕上げ材 A は厚さ 1mm 以上、JISA6909 建築仕上塗材のうち薄付け仕上塗材、複層仕上塗材相当品と規定されています。 ・図面の炭素繊維シート断面図及び施工工程図 (その 1) の双方で表面仕上工はウレタン塗装と記載されています。 ・添付カタログでは仕上げ材 A は、通常、①プライマー、②ポリマーセメントモルタル保護材、③塗料からなる構成であり、単純なウレタン塗装ではありません。また、構造物施工管理要領Ⅲ-7-6-1 には、ウレタン塗装の規格も記載されていません。 ・以上のように相違した内容になっておりますが、表面仕上工 A についてご教授願います。 	<p>表面仕上工 A は、「構造物施工管理要領」Ⅲ-7-1-6 の関連する規定を満足する材料を使用してください。</p> <p>後日、訂正公告いたします。</p>

2	<p>櫛引馬淵川橋補強工図（その2）の数量表で、下地処理工（プライマー工、不陸調整工）の面積と表面仕上工Aの施工面積は同じ105.7㎡と記載されています。しかし、この補強工では、炭素繊維シートの端部を補強鋼板で抑えることとなっており、補強鋼板がとりつく部分には、表面仕上工Aは不要と考えられます。</p> <p>従って、定着鋼板の施工面積が合計でAの施工面積は、$105.7 - 10.99 = 94.71$㎡ではないでしょうか。ご教授願います。</p>	<p>設計図「櫛引馬淵川橋 主桁補強繊維シート補強工図（その1）【4/38】」に記載の「施工工程」のとおり、表面仕上工施工後に補強鋼板設置としています。よって、表面仕上工Aは下地処理工と同じ面積となっています。</p>
3	<p>特記仕様書（P-3）5. 材料調達に伴う変更のH-800×800はH-800×400と思われるので、ご確認をお願いいたします。</p> <p>また、鋼矢板・切梁・腹起しのリース期間をご教授願います。</p>	<p>特記仕様書「5. 材料調達に伴う変更 5-1 対象となる資材等」に記載の規格に誤りがありましたので、後日訂正公告をいたします。</p> <p>なお、鋼矢板・切梁・腹起しのリース期間については、貴社施工計画に基づき必要な日数を算定の上、計上してください。</p>